

平成30年9月20日

取手市議会議長

入江 洋 一 殿

建設経済常任委員会

委員長 岩 澤 信

委員会中間報告書

本委員会に付託の調査事件について、会議規則第45条の規定により、下記のとおり報告いたします。

記

- 1 調査事件名 ・平成29年度取手二中3年生との合同企画で提言された意見に関する  
当委員会所管事務  
・平成30年第1回意見交換会時要望・意見に関する当委員会所管事務
- 2 調査の経過 平成30年3月12日，6月18日，9月12日
- 3 意 見 別紙のとおり

【建設経済常任委員会】平成29年度取手二中3年生との合同企画（課題・提案・考えられる効果等）

	中学生からの課題	中学生からの提案	提案が実施できた場合の考えられる変化や効果	調査報告及び検討事項
1	<p>せっかくの市民のコミュニティバスがあるが、分かりづらい。 (時刻表やルート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅とウェルネスプラザと取手市役所に大きい掲示板をつくる。視覚障がい者の人にも高齢者にも分かりやすいユニバーサルデザイン（字体をゴシック体）にする。</li> <li>・ バス停近くの施設（レストランやお店）の地図を付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニティバスの利用者が増える。</li> <li>・ 車を持たない人が住みやすくなる。（買い物、通院、レジャー）</li> </ul>	<p>コミュニティバスのルート図（時刻表）は、持ち運びに便利のようにコンパクトな折り畳み式としており、どこにいても地図や時刻を見られるようように作成してあるとのこと。</p> <p>大型看板については、設置した場所で見ただけの情報提供になってしまいますので、できるだけ障がい者や高齢者の皆さんに分かりやすいルート図（時刻表）の検討を進め、さらに現在でも行っている電話や窓口などでの丁寧な説明で、利用者の方にご不便をおかけしないような対応をしていきたいとのことでした。</p> <p>バス停近くの施設の地図情報については、例えばバス車内に、各ルートごとのマップにお店などの情報が掲載された地図などを張ることが出来ないか、市内の店舗情報をもっている担当課などと協議してみたいとのこと。</p> <p>また、市のコミュニティバスは、バスロケーションシステムにより、スマートフォンなどから地図上でバスがどの辺を走っているのかがわかるのと、あわせてバス停周辺のお店などの位置や情報が表示されるようになっているそうです。</p>

2	<p>基本的に住みやすいが、娯楽が少ない。 →大型ショッピングモールの建設、商店街、建物の活性化</p>	<p>大型ショッピングモール内に、今まで取手市内にあった商店を入れるフロアを設ける。取手の店が集まり、今までよりも利用者が増加し活発に。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街の活性化（にぎやかで人の集まる街づくり）</li> <li>・取手市内外からのお客さん</li> </ul>	<p>現在、取手市では市民の皆様と市が協力し、市内（桑原周辺地区）に大型ショッピングモールが出店できるよう、準備を進めています。昨年末には、この準備に協力してくださる企業が、イオンモール(株)とイオンタウン(株)に決まり、具体化を図っています。</p> <p>大型ショッピングモールの出店には、中学生の皆さんの提言にあるように、地元商店街との協力や、交通や防犯、防災等の面でも安全に過ごせる場所づくりのために、5年以上の期間が必要との説明がありましたが、できるだけ早く実現できるよう、働きかけていきます。</p> <p>また子どもたちが安全に楽しみ、市内外からもたくさんのお客さんが来るような、賑やかで魅力ある取手市にするため、取手二中の皆様をはじめ、多くのご意見を参考にさせていただきます。</p>
3	<p>取手市全体に活気がない！</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家を取手市のホームページやSNSなどで拡散し、新しくお店を開きたい人や住んでみたい人を募る。</li> <li>・新しくお店を開く人には、市がその商品を紹介するチラシやサイトのページをつくり、援助する。</li> <li>・市内からだけでなく、柏や</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人が住んでないような家が減る。</li> <li>・取手市の人口が増える。</li> <li>・取手駅の利用人口が増えるので、駅前の安全も確保されて、子供も出歩きやすくなる。</li> <li>・取手市が活気あふれる街になる！</li> </ul>	<p>空き家に関しては、立地適正化計画の中で今年度、3カ所のモデル地区（中央タウン・新取手・桜ヶ丘）を選定し、現状の把握を行う予定です。</p> <p>「取手市空き店舗活用補助金」で、市内空き店舗に新規出店する企業に支援を行い、賑わいづくりや空き店舗の解消を行っています。また、「ワタシの街の起業家支援 Match（マッチ）」は地方創生推進交付金で行う取手市・龍ヶ崎市の起業支援プロジェクトです。誰もが起業家応援社会「起業家タウン」</p>

		東京でも募集する。		<p>起業で町を元気にすることを目指しています。</p> <p>取手市をPRする動画を制作し「ほどよく絶妙」このブランドメッセージをもとに、昨年からは、インターネットをはじめ、羽田空港など様々な場所で放映し、取手の魅力発信に努めています。</p> <p>取手市では、以上のような事業に取り組んでいますが、さらなる市の活性化のため、今後も議会と行政が力を合わせ、取り組んでまいります</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街灯が少ない。</li> <li>・観光地が少ない。</li> <li>・野良猫が多い（殺処分を減らす）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人にアンケートをとり、少ない所に街灯をつける。</li> <li>・保護団体に協力してもらい、野良猫の増えすぎを防ぐ。 例) ⇒猫カフェ作る→有名になる→財源が増える→いろいろと使える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暗い道が少なくなり、事故等が減る。</li> <li>・野良猫の殺処分が減る。</li> <li>・観光地として野良猫問題とつなげて、両方の問題が解決される。</li> </ul>	<p>犬・猫の殺処分の件数が多い茨城県では、2016年に“犬猫殺処分ゼロを目指す条例”が制定されました。また、取手市でも昨年に市民の方から“動物愛護協議会”の立ち上げを望む請願が2017年に取手市議会へ提出され、採択されました。</p> <p>それを受けて、地域で不妊・去勢手術をした地域猫（耳がV字にカットされている）を増やす取り組みなどを行っている動物愛護団体と行政・獣医師・一般市民とで動物愛護協議会が立ち上がり、多くの関係する方々の連携のもと、取手での野良猫の増えすぎを防ぐ取り組みが進められています。</p> <p>現在、街灯が必要な個所については自治会・区の会長・区長を通じて、市役所に要望を出していただいたものに対して1件1件対応して、取手市防犯灯管理基準に基づき街灯設置を進めているところです。しかし、毎年の予算には限りがあり、要望全てに即座に対応できるものばかりではない現状があ</p>

				<p>ります。また、夜道が暗いと感じていても要望を届ける窓口がどこなのか分からないという方も多く、声なき声があるとも考えられます。</p> <p>そのような中で、地域住民へのアンケートをとり、街灯が必要な個所を洗い出して可視化していくというご提案は検討すべき価値のあるものだと考えます。</p> <p>まず猫カフェをつくることは、上述したように、地域猫を増やす取り組みが進められている現状がある中で、捕獲した猫を集めて“猫カフェ”をつくるというアイデアは、中学生らしいご提案だと感じました。</p> <p>運営を行う個人・団体等がカフェを構えるために必要なものは、設備投資や人件費にかかるお金、また開店場所は空き家・空き店舗も考えられると思います。</p> <p>しかし、こういった活動は行政よりも民間で進めることが望ましいと考えます。その理由は、愛玩動物といわれる猫を好きな方もいらっしゃれば、嫌いな方もいらっしゃいます。また、カフェを運営する資金繰り、PR、運営については民間の経営感覚のある方が担うのが望ましいと考えるためです。</p> <p>取手市の課題でもある観光地が少ないというテーマについてですが、観光客（交流人口）が増えて、地域でお金をつかってもらえる人が増えれば地域</p>
--	--	--	--	--

				経済が活性化するとともに税収入を増やすことにつながりますので、観光地がなければ新しくつくるという発想はこれからの時代に必要な考え方で、若い世代のアイデア・情熱を参考にまちづくりを考えていきたいと思います。
--	--	--	--	--

【建設経済常任委員会】平成30年第1回市民との意見交換会（要望・意見）

	要望・意見	調査報告及び検討事項
桑原 1	桑原地区の開発について、不動産部門は入っているのか。住宅街区があるが住宅メーカーは入っているのか。	桑原地区は商業・業務主体の拠点として進めているため、今のところ住宅系の不動産部門は入っていません。また、地権者と土地区画整理準備組合を立ち上げるために、イオンモール(株)・イオンタウン(株)共同事業体が、事業協力者として選定され、これから詳細なプランを練る段階と聞いています。
桑原 2	計画が頓挫する可能性もあるのか。	可能性はあります。議会として見守っていきます。
桑原 3	小学校・中学校や病院はつくる予定はあるか。	桑原地区は区域面積67.6ヘクタールの商業・業務主体の拠点として進めていると同っています。
桑原 4	計画が頓挫したら誰が責任を取るのか。民間企業は会社の利益が第一なので怖い。ペナルティはどのように設定されているのか。	現在は事業認可の前段階ですが、事業認可を取得し、土地区画整理組合が設立され、事業協力者と土地区画整理組合が契約を締結することで、事業推進が確保されると考えます。
桑原 5	藤代に住んでいるが、やっと取手市も大きい施設をつくって、人を呼び込む計画ができた。非常に期待している。工程表をしっかりと見せて進めてほしい。	この事業は地権者合意に基づく組合施行の土地区画整理事業です。現状は農業振興地域・市街化調整区域のため、開発には制限のかかる区域です。そのため、計画的に市街化区域に編入し、開発可能な区域にしていきますので、議会としても魅力ある取手市を目指していきます。
桑原 6	阿見のアウトレットは圏央道を見込んでつくった。桑原の開発は交通インパクトをどう見込んでいるのか。	南北に走る国道6号、県西方面と連絡する国道294号、また、つくば市と成田市方面を結ぶ県道取手・東線などが幹線道路として存在し、それらを結ぶ上新町環状線が開通したことから、桑原地区は各方面の交通結節点であるため、広域の集客が見込まれるとの説明を受けました。
桑原 7	隣接している、つつじヶ丘・井野屋敷などの周辺を含めた計画をどうするのかという視点も持ってほしい。隣接した部分も含めて開発を進めるこ	桑原地区は都市の便利さ、楽しさあふれる空間、活力を創出する新たな交流拠点として整備します。これにより周辺地区に波及効果が見込まれ、地元の機運の高まりに合わせて、議会でも活力あるまちづくりを進めていきます。

	とがまちづくり。地域住民を加えて、どういうまちづくりをしていくかというテーブルを用意してほしい。機運も高まる。	
取手駅周辺1	A街区の開発について、土浦・水戸はアーケードがあり、すごい開発。取手駅西口には何もなし。顔づくりが大事。	A街区は関係権利者の皆様が、再開発組合を立ち上げて進めていくものです。市は関係権利者の皆様に支援し、事業協力者である大京・戸田建設共同事業体と駅前として相応しい事業計画案の検討を進めています。市も公共施設などの導入を検討するほか、国の事業費補助制度に基づく補助金による支援を行うなど、民間事業者と協働して進めていきます。
取手駅周辺2	エスカレーター・エレベーターや、東西自由通路の計画はどうなったのか。	駅バリアフリーは現在3案で検討中。市はJRと協議を継続しています。東西自由通路は、駅周辺の利便性向上と活性化が図られ、必要性を感じています。しかし、現在は区画整理事業を優先的に進めており、区画整理事業の進行状況を見て検討する方針です。
取手駅周辺3	ある議員の話の中で、「ビジネスホテルを建てればいい」と言っていたが、何か目的がないと訪れないのではないか。帰宅時（20時過ぎ）にどれだけのお店がやっているのか。市役所の窓口は開いているのか。そういったことが整備されないと、コミュニティ振興・交流が図れない。	ゆめみ野などでは、「とりで住ま入る（スマイル）支援プラン」の効果もあり、増加傾向にあります。20年後の予測人口は8万5,000人です。桑原・A街区の開発を起爆剤に若い世代の交流人口を呼び込み、人口構成のバランスを図ることを計画しています。
取手駅周辺4	東口のコンビニ、NEW DAYSの跡地はどうするのか。もったいないので何かいい意味で利用できれば。本屋・コンビニ・ファーストフードなどがあると嬉しい。藤代地域もコンビニが増えている。資本力の勝負。	JRの持ち物。社内活用を検討していると思われます。
まちづくり1	2015年10月にシティプロモーション係に1人配置した。定住してもらい、人口増を狙っているとしたら、どれだけの効果が出ているのか。	人口減はこのままいくと深刻な現状です。取手の魅力を発信し、人口増につなげるかが課題です。住み続けられる取手、安心して子育てができる取手など、市民生活優先のまちづくりを議会として求めてまいります。



	また、完成した際（2024年）には、どれだけの定住人口が増加するのか。人口が減ってきているのなら、学校を統廃合するのは理屈に合う考えだが、人口が減るのであれば、それだけ住みよい地域にするという考えを聞いたことがない。	
まちづくり2	県の施設が1つもない。ぜひ開発をしっかり進めてほしい。取手の顔づくりを一生懸命頑張ってもらいたい。	県道、警察、競輪場等がありますが、市民が利用できる県の施設はない現実です。市民生活に直結した開発（整備）は必要と考えます。取手の顔づくりとしても検討課題だと思います。
まちづくり3	住み続けられない。都心に安く住めてしまうため、リターンができない。	取手より都心のほうが住宅環境は良い条件です。リターンできる（住み続けられる）環境づくりを求めてまいります。
まちづくり4	品川には直通で、藤沢などにも取手から1回の乗り換えで行ける。取手は非常に便利ということをもっとPRすべき。	シティプロモーション＝住みやすい取手・子育て応援取手などをしっかり展開して、定住人口増加を目指していきます。
まちづくり5	牛久の農作業体験ができる場所に、ベトナム人が遊びに来ている。農家側としても手伝ってもらえるとありがたい。農大のOB会などを参考にしてはどうか。	農家の皆さんの豊かな農地を活用して農業経営ができる施策を取手市としても持つべきだと考えます。そこには、農大のOBや民間の力も検討可能だと思います。
まちづくり6	産業振興をどう考えているのか。コールセンターや、在宅勤務の奨励も有効と考える。都内の企業に誘致を図っているのか。視野を広げると、ネタはたくさんあるし、実際に会社を呼んでくるためのアイデアを。AIなど、大きなテーマのベンチャー企業などを誘致することに可能性があるのでは。受入地域の住民が納得して受け入れられる	取手市としては産業活動支援条例・空き家活用条例・起業家タウン取手という事業や施策があります。また、取手には工業団地として活用できる土地がない中で、伊藤ハムの工場も2棟目が完成予定で150人程度の雇用が想定されています。 Match取手のレンタルスペースから起業家が輩出される事業や、前田建設の研究施設・鉄道関連の研修施設などの実績もあり、それらをしっかりとPRしていきます。

	ようにする必要も。	
まちづくり7	大きなスポーツ大会では、キリンビール（サッカー）、日清製粉などのスポンサーをしっかりとっている。市内で開催するスポーツイベントに協賛してもらうことも検討すべき。都内から往復の100kmマラソンを企画してもいいと思う。	駅前の活性化イベントでは協働いただいています。スポーツは今後の検討課題といたします。
まちづくり8	潮来の屋形船なども参考にして、地域の魅力を活用すべき。	参考意見としていただきます。
道路1	普段から自転車で行動している（寺原付近）。6号線が重要になる。自転車の道路が整備されていない。小貝川を渡るバイパスの（歩道も含めて）道路拡幅が必要。震災のとき大渋滞。	藤代バイパスについては茨城県国道6号整備促進協議会などで、バイパスの4車線化を茨城県を通じ、要望活動を行ってきております。引き続き要望を行ってまいります。
道路2	新取手の踏切のところを拡げてほしい。細いので自転車で通るときに怖い。	国道294号から新取手に入る踏切については、歩車道が分離されておりますが、自転車が通行するには狭い歩道となります。関東鉄道に地元からの要望として協議を進めていきます。
道路3	藤代の消防署の前の県道が市道に。継ぎはぎだらけの道路で舗装が汚い。	ライフライン工事が完了することにより、部分的に舗装は打ち替えられますが、既存の舗装が残る部分もあります。状況を見ながら修繕を進めてまいります。
道路4	側溝のふたは、自転車で通るのは危ない。	側溝については、部分的に破損している場所もあることから、道路パトロールや地元要望などにより危険な箇所は優先的に補修する予定です。